

中国企業の多国籍化

方 帆

本論文では、中国企業の多国籍化の歴史と実態を考察すると共に、理論研究と事例研究を通じて中国型多国籍企業モデルを3つの段階に分けて検証する。

第1に、政策的な視点から中国企業の多国籍化発展の歴史を考察しながら、多国籍化の特徴、形態、目的を明確にする。また、中国企業の多国籍化の促進要因としてWTO加盟と政府の支援戦略を検討する。その際、中国企業の対外直接投資の資金調達と政府による援助資金の構造を明確にする。

第2に、中国企業の多国籍化を取上げて、優位性を持たない中国型多国籍企業モデルを中心に検証する。中国型多国籍企業の成長モデルの分析では、進出する前に企業特有の優位をほとんど持たない企業が市場、資産（技術、ブランド、資源）、効率を求めて、対外直接投資を通じて外国で初めて優位性を獲得するというプロセスを明らかにする。

第3に、企業特有の優位を持たない中国企業が先進国で技術（または優位性）を獲得し、そして新たな国際の逆技術移転を引き起こすことを検証する。その際、投資先国から投資本国（先進国から発展途上国）への、発展途上国の多国籍企業による逆技術移転が存在すると仮説を立て、中国のケースに当てて実証を行う。

中国型多国籍企業モデルの特徴をまとめると、次の3点になる。第1に、技術吸収能力を含む企業特有の優位をほとんど持っていない企業が対外直接投資を行っている。第2に、そのような企業が先進国にも進出し、先進国から技術を獲得しながら成長していく。技術獲得では、一番大きな特徴が「一括方式」型である。「一括方式」型の技術獲得、または優位性獲得では、技術吸収能力も多国籍化してから獲得する優位性である。第3に、企業特有の優位を持たない企業の対外直接投資を可能にした誘因は、政府と企業のアライアンスである。中国政府による莫大な資金援助は、企業にとって資金調達の要因でもある。このタイプの資金調達および対外直接投資において、政府の役割が大きい。これは、社会主義型経済開発の特徴といえよう。